

平成 31 年 4 月 22 日

4 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

群馬県での原木出材は雪解けも早く順調、集荷も容易である。原木価格は下落傾向が続いている。工場の操業は順調で原木在庫も十分な状況。首都圏からの注文は増えているが、地場の製品市場、材木店、工務店からは低調である。新規の大型物件の受注が数件あり、ゴールデンウィーク前は多忙になりそうである。製品在庫は羽柄材が全体的に品薄だが、構造材は増えつつある。貫、胴縁の引き合いは相変わらず強いが、バタ角や栈木等の土木用材はやや低調である。原木価格と製品価格のバランスが少しずつ取れ始めている。

2. 米材

米加産地では 2 月中旬の降雪で原木の出材は減少したが、3 月には米加ともに回復し、港頭在庫はある程度、潤沢な水準になっている。ウェアハウザ一社の 4 月積み対日価格(推定)は IS 級\$870 で前月比横ばい。産地製材工場の原木購入増により産地価格が上向き、これを背景に産地サイドは値上げを主張、一方、日本サイドは国内の DF 製材が欧州 RW 集成平角の値下がりにつつまられる形での下落基調を理由に値下げを要求し、綱引きの結果、横ばいで決着した模様。米国製材価格は 3 月下旬にかけ 5 週連続で下落した。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(4/1)は\$360/M で 3 月頭に比べ 3.0%のダウン。第 2・四半期は各社とも売りあぐねている状況で、産地価格は、DF が第 1・四半期からはほぼ据え置き、SPF は同水準または若干の下げ方向にある。

2 月の原木入荷量 175 千 m^3 と低調、1~2 月累計で 406 千 m^3 (前年同期比 5.2%減)。出荷量は 1 月と同量の 210 千 m^3 、1~2 月累計で 420 千 m^3 (同 2.1%増)、在庫は 159 千 m^3 に減少、在庫率は 0.75 ヶ月と史上最低の水準で 1 ヶ月を下回る状態が継続。国内の大手米材製材メーカーの製材廃業で他のメーカーに注文が流れ、稼働は順調。3 月末に中国木材が KD 平角の値下げ(2,000 円/ m^3)を発表した。3 月の東京木材埠頭の入荷は 26 千 m^3 (前月比 75.1%増)、出荷は 21 千 m^3 (同 2.4%減)、在庫は 58 千 m^3 (同 8.3%増)。北米材は先安感もあり、荷動きは鈍い。

3. 南洋材

サバ州の天候は乾季に入り伐採は活発化しているが、依然として原木輸出は禁止されている。サラワク州も乾季に入り出材は良好であるが、輸出枠の制限でマーケットは閑散としている。特にインドからの引き合いが激減し、価格は弱含み。PNG・ソロモンはインドからの引き合いが増え、中国向けは低迷。PNGの北側は大雨で原木生産に支障があるが、南側は乾季で生産は活発。4月予想の原木入荷、出荷量は15千 m^3 、在庫量は30千 m^3 、製材品入荷は35千 m^3 。フリー板の市況が非常に悪く、生産調整に入っている。

4. 北洋材

シベリア主要シッパーの対日アカマツ生産量の低迷は継続している。アカマツ原木の品質低下(細材化)が進んでいる。極東での原木輸出は輸出税値上げを価格にヘッジしようとシッパーは強気。ただし中国市場は混乱中で対応はまだら模様。アカマツ現地挽き完成品は2月後半に日本からの引き合いが殺到し、シッパーは超強気に転じたが、その後は若干落ち着いている。現地挽完成品は上級グレードの供給不足は変わらず、ジリ高だが、2月に比べ3月/4月初頭の荷動きは落ちている。国内完成品は各メーカーとも原板在庫が減少しており、注文には全て応えられない状況。更なる値上げの可能性が高い。4月予想の原木入荷、出荷とも10千 m^3 、在庫は19千 m^3 。製品入荷(東京+川崎)は21千 m^3 、出荷19千 m^3 、在庫41千 m^3 。

5. 合板

国産材原木は東北カラマツの引き合いが強く高値張り付き、スギは出材が安定し、落ち着きが出てきた。ロシア材は出材が限定的で引合いが多く強含み。米材は弱含みで大きな変化はない。南洋材は弱含み傾向で出材は低調である。

2月の国内合板生産量26.4万 m^3 のうち、針葉樹合板は25.3万 m^3 となった。出荷量は25.3万 m^3 となり、在庫量は13.5万 m^3 。このうち構造用合板は10.9万 m^3 で前月より微増となったが、低水準の在庫に変わりはない。針葉樹合板は順調に配送されており、品不足の9mmも回復傾向にある。2月合板輸入量は22.6万 m^3 で、マレーシア、中国、ベトナムが軒並み先月より少なく、またインドネシアは先月よりも多い入荷となった。輸入合板の荷動きが非常に悪く、強い停滞感があり、全体的に在庫過多の傾向にある。産地マレーシアでは雨季から乾季へ移行しており原木在庫に逼迫感は特に感じられない。インドネシアでは比較的雨量の少ない雨季であったが、軟調な原木価格を嫌って伐採を手控える業者も出ており、出材は低調である。

針葉樹合板は停滞感が強いが、4月からプレカット業者の動きが活発になることが予想され、また在庫量が少ないことから、価格は引き締まっていくも

のと見られる。輸入合板は現状赤字販売が続いており、4月以降の価格建て直しへの期待は大きい。

6. 構造用集成材

4月のラミナ入港は順調で少し多め。第2・四半期のラミナ価格は若干の下げ。欧州では中国の買いが悪くなり、対日販売を強化している。4/1より関税が下がるため、ラミナ価格は値下がり基調。国内メーカーの4月受注は増加、販売・荷動きとも例年通りの見込み。国内メーカーのRW梁は6万円前半/m³、WW柱は1,880円~1,900円/本で値上げ基調は一服。円高、関税引下げを考慮しても採算は合っていない。輸入集成材のRW梁は6万円/m³を切っている。WW間柱の品薄は継続。輸入集成材のオファーは多いが、PC工場への販売に苦戦。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷は順調だが、FITの制度改革により未利用材の囲い込みが厳しくなっている。解体材の発生量は多く、使用量が少ないため受入制限を行い、各社操業のやり繰りに苦慮。製紙用の国内針葉樹チップは各社とも増集荷基調で推移。燃料用チップは暖冬の影響でボイラーでの燃料使用量が減少。燃料用チップは各社とも余剰感が非常に強く、製品、在庫置場の確保に苦労。受入制限、受け止め等の工場も多い。

8. 市売問屋

製品市場では国産材・外材構造材ともリフォーム中心で量的な動きが少なく、羽柄材中心の動きである。国産材は和室の減少で販売量が極端に減っている。東北の製材所の原木不足は相変わらずの状況である。製材所の値上げ前に注文する問屋が増えているが、一日の生産量が決まっており、注文を止めている模様。

9. 小売

3月上旬までは例年に比べ動きが良かったが、後半より停滞感が強くなった。スギの貫、胴縁とも落ち着いてきた。母屋も同様、価格は強含み。ヒノキ材は荷動き、価格とも横ばい。欧州材の3m間柱は品薄の物もあるが、逼迫感はなく、価格は横ばい。ロシア材の上級グレードは引き合い多く強含み、代替材としてLVLにシフトする動きも見られる。国産針葉樹合板の荷動きは停滞感が漂っており、価格は横ばい。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
		ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→	
		ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→	
		ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→	
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
		米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
			アカマツ (KD) 16×40上級	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→